

第13回美しい農村環境写真コンテスト作品評

特別審査員：鏑山英次 氏（写真家）

（撮影者：敬称略）

最優秀賞

「環境新時代の田んぼ」

（撮影場所：旭市 撮影者：坂倉 徹）



谷地状の水田と森の彼方に新造された風車が風を受けて回っている。抜けるような青空のもとで、振り返って遠視する農夫の仕草が印象的だ。構図の捉え方も絶妙で、新しい時代の環境が予見できそうな、訴迫力のある描写になっている。

千葉県土連会長賞

「朝の詩」

（撮影場所：八街市 撮影者：川嶋玄良）



野積みのポッチが早朝の冷気に包まれ、詩情豊かな空気感を見事に捉えていて、まさに、この地ならではの光景を風物詩としての確に表現している。毎朝、通い続けた執念の成果が作品から覗える力作。

特別賞

【千葉県農村振興技術連盟委員長賞】

「里芋祭り」

（撮影場所：館山市茂名 撮影者：関口英雄）



代々受け継がれてきた「祈り」と「感謝」の慣わしが、率直に映し出されている。人間の能力を超えた存在に対する自然界への感謝の行事が何時までも残っていてほしい。作者の気持ちが伝わってくるようだ。ベスト・ポジションで捉えた秀作。

特別賞

【千葉県農地・水・環境保全向上対策協議会長賞】

「朝の道」

（撮影場所：八街市 撮影者：川嶋かね）



菜の花が咲き誇る砂利道を、友達と語らいながらの登校をスナップ。二人の語らいの表情が周りの花々に溶け込んで、明るく清々しい雰囲気醸しだす。見送って帰る妹さんの後ろ姿が奥行き感を深めていて、完成度の高い作品に仕立てている。

金賞

「農業一筋」



(撮影場所：多古町 撮影者：大胡和美)

背景の処理が巧妙で、遠近感を利用しながら日常の農婦像を逞しく上手にまとめた描写は手堅い手法で、季節感の描写にも配慮がある。

銀賞

「稔りの秋」



(撮影場所：鴨川市 撮影者：高橋武彦)

狙い澄ましたベスト・アングルからのフレーミングは的確で秀逸。細部にわたって完成度の高い作品に仕上がっている。

「お手伝いの合間」



(撮影場所：大網白里町萱野 撮影者：上出善治)

一家でやって来た楽しい田植えの日。手伝いのお父さんが子供たちにサービス。明るい親子の表情の確かなフレームが好評。

銅賞

「もう一息」



(撮影場所：芝山町 撮影者：亀谷修子)

引き抜こうとする大きな大根。思わず力が入るが、もう少し低く構えた方が効果的。

「夏蜜柑の時節」



(撮影場所：鴨川市千枚田 撮影者：金親俊夫)

奇抜なフレーム。日中のシンクロが効果的で深度の捉え方にも工夫がある。

「山里の春」



(撮影場所：佐倉市吉高 撮影者：椎名敏子)

山桜の古木に菜の花が色を添える里山の環境での農作業を自然体で描写した。

〔総評〕

土と水は総ての生命が宿る自然界の原点で、そこに人が住んで里が生まれる。

太古から人の働きかけによって風土が醸成されてきた。土地改良は人の足跡が蓄積された文明の象徴です。どの光景にもそうした履歴が刻まれています。

農村環境の写真コンテストはそこに住む人々が、現時点で自分の住む生活環境をどのように理解しているかが問われています。写真は容易に写る時代ですが、作者の思想信条がレンズを透視して、そのときの知的興奮が瞬時に、しかも、的確に具現されるものです。その表現の密度の濃いものが見る側にも感動を伝えています。

景観 10 年、風景 100 年、風土 1000 年と言われるなかで、農のある自然環境、生活環境、祭事や祭り、変化する景観や風景、農を背景とした人物の表情など、どれもこれも知的興奮を掻き立てるものが多かった。年齢的に高年齢の方が圧倒的に多数だったのは、農村環境の推移をつぶさに見つめてきた、鋭く深い眼差しが作品の中から覗えました。

そしてまた、写真表現の手法も的確で完成度の高水準のものが多かったのは、このコンテストの存在価値を高次元のものにしています。

日本写真家協会

日本写真協会理事

鏑山英次

《審査会風景》

